

学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、小中一貫教育9年間で目指す豊かな人間性と創造性を備え、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる心身ともにたくましい人間像の実現を目指し、次の教育目標を設定する。

【目指す15歳の姿】

知性にあふれ 正しく判断できる人
豊かで 品格のある人
健康で 行動力のある人

【教育目標】

なかよく
かしこく
たくましく

■■■ 学力向上にかかわる学校経営計画 ■■■

- 児童の実態から指導方法の工夫、評価の改善に努め、学習意欲を向上させ、各教科の基礎的、基本的な内容の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。
- 本校と大泉中学校の「計算力に関する実態調査」の結果を活用するとともに、日常の授業における児童の習熟状況を把握し、一人一人の児童にきめ細やかな指導の充実を図る。
- 各教科の評価規準を活用し、児童一人一人の学習状況を確実に評価する。

新しい時代に必要となる資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

【各教科の指導の重点】

- ・体験的な学習や基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習を通して、学習意欲の向上、学習内容の確実な定着、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。
- ・算数科においては、少人数加配教員、学力向上支援講師を活用し、少人数学習集団による指導、ティーム・ティーチングによる指導を行い、習熟度や興味関心に基づくきめ細やかな指導を行う。
- ・大泉中学校との小中連携において作成した体育科を中心としたカリキュラムに基づき、9年間を見通した学力の向上を図る。
- ・国語科における記録、要約、説明、論述等の言語活動および各教科等の特質に応じた言語活動の指導の工夫による思考力、判断力、表現力等の育成を図る。

道徳の指導の重点	外国語・外国語活動の指導の重点	総合的な学習の時間の指導の重点	特別活動の指導の重点	生活指導の重点	進路指導の重点
<p>学校教育全体を通じて、それぞれの教育活動の特質に応じて行う道徳教育と、それらを補充、深化、統合する道徳の時間の充実を図り、道徳性を育成する。</p> <p>各教科、外国語・外国語活動、総合的な学習の時間および特別活動における道徳教育と密接に関連を図りながら、計画的、発展的な指導を行う。</p>	<p>外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、聞く力などを育てる指導の充実を図る。</p> <p>日本語とは異なる外国語の音に触れ、外国語を注意深く聞いて相手の思いを理解しようとしたり、他者に対して自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感したりしながら、積極的に自分の思いを伝えようとする態度を育成するための指導の充実を図る。</p>	<p>体験的な学習に取り組み、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動となるよう充実を図る。</p> <p>体験活動をしたがり、調べたりしながら、必要な情報を集め、得られた幅広い情報を整理・分析したり判断したりしながら、既習の知識や経験と結び付け、自分の考えや意見、発見したことなどをまとめ、表現する指導の充実を図る。</p>	<p>児童の自主的、自立的な活動を重視し、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育て、生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う指導の充実を図る。</p> <p>学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を育てる。</p>	<p>児童一人一人の人格を尊重しながら、規範意識を育むなど社会的資質や行動力を高める指導の充実を図る。</p> <p>児童の実態を把握し、学校全体で組織的な指導を行うとともに、学校教育相談機能を充実させ個に応じた指導を推進する。</p>	<p>各教科等の指導を通じて、学習課題や活動を選択したり、自らの将来について考えたりする機会の充実を図る。</p> <p>学級活動等において、自己の悩みや葛藤、将来の夢などの課題を積極的に取り上げ、考えを深められるようにして、指導の充実を図るとともに、家庭や地域と連携した指導を行う。</p>

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・方法の工夫	教育課程上の工夫	校内における研究や研修	評価の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
別紙参照	<p>○年間を通じた教材研究時間の確保</p> <p>・標準授業時数を適正に確保しながら、校内行事や会議の精選を行い、教員の教材研究の時間を設定し、指導方法の向上に努める。</p> <p>○朝学習の充実</p> <p>・漢字や計算、読書など基礎的・基本的な学習および発展的な学習の充実を図る。</p>	<p>○小中連携における研究</p> <p>・理数教科における学習の円滑な接続のためのカリキュラムと指導方法の開発に努める。</p> <p>○考え、表現する指導方法の研究</p> <p>・理数教科における問題解決的な学習指導および思考力、判断力、表現力等を高めるための指導方法の研究に努める。</p> <p>○コミュニケーションスキル</p> <p>円滑なコミュニケーションを図るための指導方法の研修に努める。</p>	<p>○基礎的・基本的学力の定着</p> <p>・評価規準を活用し、指導と評価が一体となった教科指導計画に基づき定着の状況を確認し、一人一人にきめ細やかな指導を行い、学力の向上を図る。</p> <p>○授業における学習状況の把握</p> <p>・日常の授業における学習状況を小テスト、机間指導、ノート指導、発表等を通してきめ細やかに把握し、個に応じた指導の充実を図る。</p>	<p>○学校行事および授業公開</p> <p>・学校公開、学校行事等、常に学校を開くとともに、アンケートなどから期待や要望を受け止め、授業改善に生かす。</p> <p>○学校評価の活用</p> <p>・学校評価の結果を分析するとともに学校評価委員会に説明し、学校の自己評価と合わせて教育課程の改善および授業改善に生かす。</p>

指導内容・方法の工夫

学力調査結果の概要

6年生の結果より

大泉小学校の平均正答率は、国語・算数において全ての項目で都平均と全国平均を上回っている。国語では、特に、知識・技能では都平均・全国平均より大きく上回っているが、身に付けた知識や技能を使って、思考・判断・表現することを苦手としている。集めた情報から自分の伝えたいことを考え、分かりやすく伝えられるように、構成メモを活用したり伝えたい内容を友達と検討したりすることを繰り返し指導していく。算数では、「数と計算」は、都平均・全国平均より大きく上回っているが、図形に関することとグラフの読み取りに関して、正答率が都平均や全国平均よりも下回っている。今後、知識・技能の定着を図りながら、身に付けた知識・技能を使って自分で問題解決方法を考え、文字や絵、図にして表現することを繰り返すこと、また、タブレットを活用し、具体的に図形を考えられたり、グラフの推移を見られたりする指導を行い、より確かな学力が定着するよう、指導していく。

国語科指導の工夫

【国語科の見方・考え方】 対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

「言語活動」の指導の充実

「言語活動」を充実させるには、的確に情報を理解し論理的に思考する力、互いの立場や考えを尊重して伝え合う力、我が国の言語文化に触れ感性や情緒を育むことが重要である。そのため、「A話すこと・聞くこと」や「B書くこと」、「C読むこと」の各領域を高めるためには、言語の美しさやリズムを体感させたり、発達の段階に応じて記録・要約・説明・論述といった指導の場面を生活場面と関連付けて設定したりすることで指導の充実を図っていく。

授業改善の具体策

児童が日常生活の中で興味や関心をもっていることから話題を決めたり、想起させたりすることなどを通して記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの課題場面を設定し、目的意識を高める工夫を行っていく。

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
第1・2学年	知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりする。	紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりする。	事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読む。
第3・4学年	図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりする。	疑問に思ったことを調べて報告する文章を書いたり、新聞に表したりする。	記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合う。
第5・6学年	調べたことやまとめたことについて討論などをする。	意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりする。	編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む。

文章で表された情報をもとに「考える力」の育成

「思考力、判断力、表現力等」の「考える力」を育むためには、感じたり想像したりする力を養ったり、人との関わりの中で伝え合う力を高めたり、教材文を読むことを通して自分の思いや考えをもてるようにしたりと系統的で学ぶ必要がある。また、「情報の扱い方」においては、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かせるように、集めた情報を分類したり、関係付けたりした後に伝え合う場面を設定するなどの指導の工夫を行っていく。

授業改善の具体策

「考える力」を育むためには、教材文が「分からない」から「分かる」へ、さらに、「分かる」から「より分かる」ように児童を変容させる必要がある。そのために、「文章を読み解く視点」を教材文に合わせて意図的・計画的に示し、深い読解ができる授業を行っていく。

第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
事柄の順序 場面の様子 順序に従って内容をおさえたり、場面の様子に気付きながら読み取ったりする。	内容の中心 段落相互の関係 文章の部分としての段落、段落と段落との関係、文章全体の関係、大事なところはどこかなど、筆者の主張や述べ方に目を向けさせる。 説明的文章…中心語句、中心文、中心段落 文学的文章…物語の山場、感動的な場面	内容の把握 要旨の把握 作者や筆者の述べたい内容や述べ方を捉える。それぞれの文章のもつ表現や文体に表れた意図や工夫、論理等をおさえながら自分なりの読み取り方をし、意見をもつ。

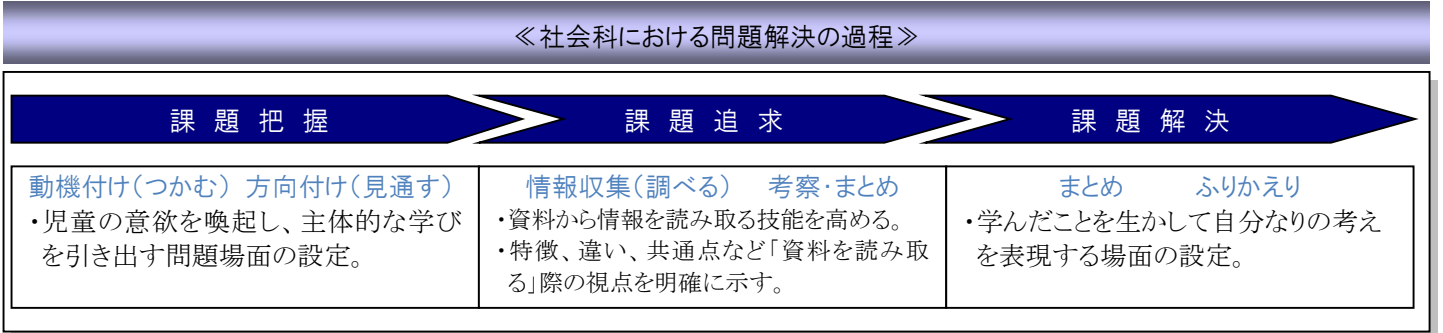
情報の扱い方	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
情報と情報との関係	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解すること。	原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方理解し使うこと。	情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

社会科指導の工夫

【社会的事象の見方・考え方】位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して、社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と結び付けたりすること。

問題を追求・解決する学習

社会科においては、児童が課題を追究したり解決したりする問題解決的な学習過程を充実させることが大切である。問題解決的な学習過程の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するよう、児童が社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもって他者と共同的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりする学習過程を工夫する必要がある。



授業改善の具体策

各学年の段階に応じて、観察、調査したり、地図や地球儀、統計、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用したり、社会的事象の意味や働きなどについて考え、表現したりする力を育成するための指導の充実を図る。

第3・4学年	第5学年	第6学年
<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を読み取る。 資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える。 資料から読み取ったことを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を読み取る。 資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える。 複数の資料を関連付けて読み取る。 資料から読み取ったことや考えられることを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を的確に読み取る。 資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える。 複数の資料を関連付けて読み取る。 資料の特徴に応じて読み取る。 資料から読み取ったことや考えられることを表現したり交流したりしながら自分の考えをまとめ、表現する。

算数科指導の工夫

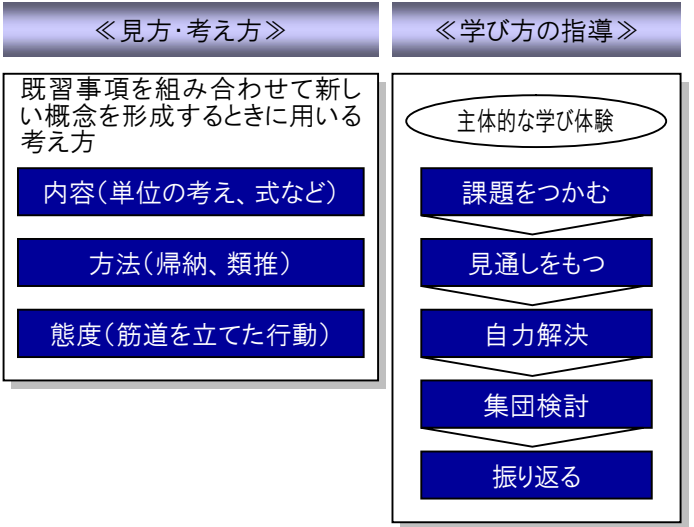
【数学的な見方・考え方】事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統一的・発展的に考えること

問題発見・解決能力を身に付ける学習

算数科においては、問題を解決したり、判断したり、推論したりする過程において、主体的に見通しをもち筋道を立てて考えたり表現したりする力を高めていくことを重要なねらいとしている。既習の学習内容を基に考えさせたり、既有経験を生かして問題解決させたり、体験的に理解することを通して自ら課題を見付け、主体的に問題を解決する能力を身に付けさせる指導を行う。

授業改善の具体策

「課題をつかむ(何を学ぶのか)」「見通しをもつ」「自力解決」「集団検討」「振り返る(何を学んだのか)」などの問題を主体的に解決する過程を意識的に授業に位置付け、主体的に見通しをもち筋道を立てて考える力を育成する。また、児童が具体物や半具体物を用いたり、言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いたりして、自分の考えたことを表現したり、友達に説明したりする作業的・操作的・体験的な算数的活動を取り入れ、テープ図や線分図、数直線などを操作的な「問題解決のアイテム」として使いこなせるよう、継続的、発展的に指導を行う。特に、言葉で説明することを苦手としている児童が多いので、日常的に「自分の言葉で書く」活動を意識的に授業に取り入れていく必要がある。



理科指導の工夫

【理科の見方・考え方】身近な自然の事物・事象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの問題解決の方法を用いて考えること

問題を科学的に解決する学習

理科において、各学年で重点を置いて育成すべき科学的な思考力は右のように示されており、問題解決的な学習が重視されている。児童が自然の事物・事象に関心を持ち、そこから問題を見だし、解決する方法を考え、観察・実験などを行うことにより結果を得て、解決過程や結果について個人で考察をしたり、相互に話し合ったりしながら結論を導く。このような手順を通して、見方・考え方を働かせながら、科学的な知識・技能や問題解決の力などを身に付けることのできる指導を行う。

《各学年で育成する科学的な思考力》

第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
比較	関係付け	条件制御	多面的追求

■■■授業改善の具体策■■■

学習の入り口となる「事象との出会い・気付き・疑問」を提示する場面では、児童の生活経験に基づく事象や興味を引き付けるような事象を提示し、身近にある事物・現象の不思議に気付かせる。調べていく問題を身近な事象にすることで、学習に取り組んでいく必要性を感じさせ、児童が主体的に学びに向き合えるようにする。

学習ノートやワークシートを使用する際にも、「問題」「予想・仮説」「実験」「結果」「考察」「結論」などの記述を積極的に取り入れるよう働きかけ、問題解決の過程を児童にも意識付ける指導を行う。また、何が同じで何が違う？(比較)、変化を引き起こす要因は？(関係付け)、どの条件を変えて比べる？(条件制御)、いくつかの結果から分かることは？(多面的追求)など、学年に応じて児童に働きかける視点を明確にし、科学的な思考力を育む指導を行う。

また、観察・実験において、結果を表やグラフに表したり、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化したり、イメージ図や表などに表したりして、考えを可視化することや伝えることを重視して、言語活動の充実を図る。さらに、問題解決的な学習方法について、中学校との接続を図る。

《理科における問題解決の過程》

